

提出日： 2025 年 6 月 30 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文	教授	マシューズ・ジョン

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	1
	2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日	
	3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日	
	4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	研究期間は3つに分かれていた。4月から7月まで、ヴュルツブルク大学の「Siebold-Collegium Institute for Advanced Studies」のフェローとして、L2・L3 言語習得における音韻発達研究グループに所属していました。研究所に定期的に研究会を開き、教授、研究者、大学院生が、以前に習得した言語が新しい馴染みのない言語の音声知覚に与える影響について、理論に基づいた実験的研究に取り組んでいました。自分の完成した研究だけでなく、現在進行中の研究についても発表し、同じような分野の研究に携わっている他の研究者からフィードバックを受けることができた。9月から12月にかけて、トゥール大学病院のイメージ&ブレイン・ユニットにある自閉症研究チームの言語部門に所属していた。自閉症児の臨床治療プログラムの運営を見学し、臨床医や研究者との検討会に参加した。構造的言語と語用論の両方に影響を及ぼす障害を含む、自閉症者が直面するコミュニケーション障害を専門とする言語学者のグループと毎日仕事をした。時折病院で開催されるシンポジウムでは、他の研究者たちと研究の進捗状況を共有した。2025年の1月から3月にかけて、出版に向けて研究原稿を書いた。また、この時期には、この先に参加した研究チームが最近出した論文を読む機会もあった。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	ヴュルツブルク大学では、ドイツ在住中に第二言語としてドイツ語を習得したトルコ語母語話者のL3英語の研究のために開発された実験方法の実施指導を受けた。これにより、第二言語として英語を習得した日本語母語話者のL3フランス語とL3ドイツ語を調査するための枠組みを得ることができた。研究の結果、学習者の母語も第二言語も、第三言語における言語表象の構築の基礎となる唯一の言語知識源ではないことが明らかになった。この発見により、科学文献に存在する従来の仮説のいくつかを否定することができ、今後の実験的研究の指針となる新たなリサーチ・クエスションを生み出す根拠を得ることができた。トゥール大学では、大病院での研究に基づく実験と並行して、臨床治療の管理について学びました。フランスが倫理や患者のプライバシーの問題にどのように対処してきたか、また、行動研究を実施する目的で特別な集団に属する人々へのアクセスをどのように獲得してきたかを直接見ることができました。このような環境は、日本でこの種の研究に参加者を募集する方法とはかなり異なりますが、日本での研究活動の指針となるような選択をする上で非常に有益でした。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	昨年の研究経験が自分の今後の研究活動に与える影響は、主に方法論的なものであろう。研究の被験者が言語課題を遂行するための注意深く管理された実験条件に対する方法論的配慮は、それ	

	らの理論モデルの予測を検証するための証拠としての結果の妥当性に大きな影響を与える。言語知識理論と言語処理理論および学習理論との交差に基づいて予測される結果を仮定する場合に特に当てはまります。データ収集の一環として被験者が取り組む言語課題は、理論モデルが理解しようとしている言語表現と言語処理メカニズムに頼らざるを得ないものでなければならない。
--	---